

年次報告書 2018

子 ども た ち の 明 日



認定NPO法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES

年次報告書によせて

皆様の温かいご支援があつてこそ、CYRが今日まで活動を続けてこられましたことを、まず感謝申し上げたいと思います。

2016年度の年次報告で、廣戸前代表理事よりCYRが曲がり角にあり、今までの歩みを振り返った上で、新しい夢と目標を見出していきたいとお伝えしました。2017年度は、原点に立ち返り、活動を保育、教育支援に集中する方針を決定し、収支のバランスを守りながら計画を実行してゆくことを再確認しました。会の運営もシンプルかつ柔軟に進め、授かったリソースの範囲内で最大の成果を挙げることに務めてまいります。



牛場 輝夫

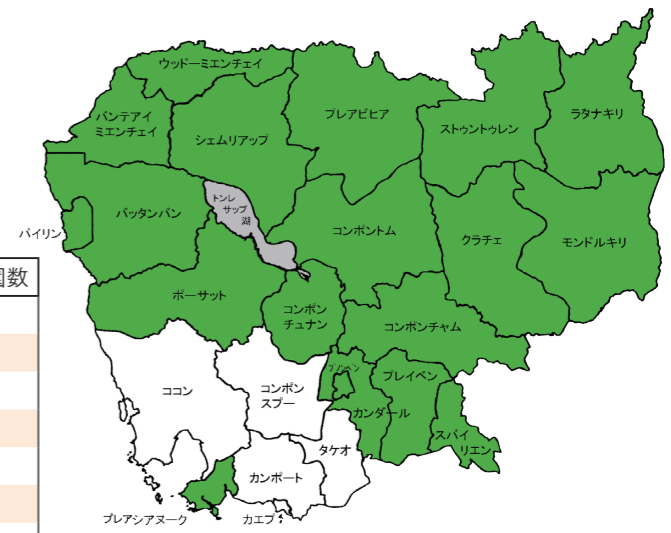
目次

年次報告書に寄せて・目次	2
活動概要	3
2017年度事業報告と2018年度事業計画	
Ⅰ カンボジア事業	4
1. カンボジア保育事業	
2. カンボジア織物事業	
Ⅱ 日本国内事業	7
2017年度 数字とグラフで見る 幼い難民を考える会	
・2017年度決算・監査報告書・2018年度予算	9
・活動収支年度別推移表	12
幼い子どもと女性の自立のために当会を支えている人々と団体	
・2017年度 補助金受け入れ先、寄付者	13
・2017年度 みんなで布チョッキン実施団体、織物製品主要販売先	14
わたしたちの組織	
・会員数、寄付者数、役員、職員、活動履歴	15

活動概要

教材セットを配布した公立地域幼稚園がある州

州	幼稚園数	州	幼稚園数
コンポンチャム州	45	クロチェ州	9
ポーサット州	4	ストゥントゥレン州	7
パイリン州	1	モンドルキリ州	1
バタンバン州	52	ラタナキリ州	1
ウドーミエンチェイ州	15	トゥボークモム州	1
バンティアイミエンチェイ州	9	プノンベン特別市	4
シェムリアップ州	11	カンダール州	2
プリアビヒア州	4	プリアシハヌーク州	2
コンポントム州	33	スバイリエン州	43
コンポンチュナン州	43	プレイベン州	17
合計			304ヶ所



Ⅰ カンボジア事業

1. カンボジア保育事業

長期間にわたり直接支援をしてきたカンダール州の2保育所は、自主運営に向けて、保育者をひとりに減らし、バンキアン保育所は午前中のみ半日保育に移行した。「村の幼稚園」のうち、カンダール州の4ヶ所は、2017年度をもって地域の運営委員会へ運営管理を移管した。2017年度には、カンダール州の克蘭リブ村とコンポンチュナン州の2ヶ所に「村の幼稚園」を開園。2018年度はコンポンチュナン州計5ヶ所に新設予定。

2. カンボジア織物事業

コンポンチャム州のアンコールバーン村では泥藍研修と藍染め技術研修を継続して実施した。また、販売促進研修を実施し、安定した収入を確保できる事業へと成長できるよう支援した。販売事業では、新しい製品づくりは受注製作を中心に、在庫品のスカーフやピダンなどの販売に注力した。



Ⅱ 日本国内事業

2017年度は福島県「やまゆり保育所」へ飲料水支援の最後の年となった。2017年度「みんなで布チョッキン」の活動では、企業やボランティアの方々の協力を得て、前年度に比べて多くの人形やボールの素材を現地に送ることができた。2019年版のCYRカレンダーも引き続き高橋智史氏の撮影で、制作・販売する。

2017 年度事業報告と 2018 年度事業計画

▶ I カンボジア事業

1. カンボジア保育事業



バンキアン村の幼稚園・プレイタウ保育所

バンキアン保育所は、2017 年 4 月から半日保育の「村の幼稚園」へと移行し、プレイタウ保育所は、これまでと同様に 1 日保育を行う保育所として運営している。両施設とも自主運営に移行できるよう、保育者の人員を減らし、モニタリング・保育者技術会議を 4 回実施し運営形態を確立した。CYR は、資金面や保育者育成などの運営支援を 10 月末で終了した。10 月には、両施設から 11 名の子どもが卒園し、バンキアン小学校へ入学した。

両施設は、教育省の認可を受けて、地域で継続して運営していけるよう、認可の登録申請を行った。

村の幼稚園

① 既存の村の幼稚園（6村7クラス）

- 2016年度までに開設した村の幼稚園に対して、月1回のモニタリングと保育者研修、自主運営に向けた地区や村、保護者とのミーティング、資金面の支援（保育者給与、教材、ゆで卵・豆乳・クッキーなど補助給食をはじめとする運営費用）を行った。
- 日本で実施しているボランティア活動「みんなで布チョッキン」で提供される人形やボールの布を縫製する仕事を保育者、貧しい保護者に依頼し、現金収入の機会を提供した。年間ボール2,170個、人形708体を製作し全国の地域幼稚園などに配布した。



② 新規の村の幼稚園（3ヶ所3クラス）

- 地域の運営委員会を立ち上げ、幼稚園の環境整備（トイレ建設と貯水用タンクの設置、教室の修復や飾り付け、備品・教材準備等）を行い、委員会が選んだ保育者の事前研修、仕事を始めてからの実務研修を行った。
- 11月に3ヶ所で、97名が登録し、開園式を行い、保育活動を開始した。
- 2018年度は、新たに5ヶ所の村の幼稚園を開設予定である。



③ 自主運営に移行した村の幼稚園（4ヶ所4クラス）

- 2017年4月より村人による自主運営へと移行した4村の幼稚園を対象に4回のモニタリングを行い、運営状況を確認し、保育者や運営委員会へ助言を行った。
- 98名の子どもが通園し、44名の子どもが10月に卒業し地域の小学校へ入学した。
- タケオ州の3村の幼稚園では、保育者の給与の未払いが発生した。2018年度は、地域での継続運営を確実にものとするため、教育省が2018年から実施予定の地域の小学校付属幼稚園の認可のための登録申請を行う計画である。



	村の幼稚園名	開設年	州	子ども数	自主運営への移行年・月	フォローアップ年	教育省認可
1	プラサート	2011	カンダール	55	2016年3月	2016	申請中
2	タプロム	2011	カンダール	20	2017年3月	2017	
3	プムノム	2013	タケオ	24	2016年3月	2017	申請中
4	カンダール	2013	タケオ	30	2016年3月	2017	申請中
5	トロピエンクロライン	2013	タケオ	20	2016年3月	2017	申請予定
6	リアンチュウ	2014	カンダール	35	2018年3月	2018	申請中
7	カオム・ソムノールー	2014	カンダール	45	2018年3月	2018	申請中
8	カオム・ソムノ・クロム	2014	カンダール	42	2018年3月	2018	申請中
9	チョティール	2014	カンダール	13	2018年3月	2018	申請中
10	スダウカンラエン・プラム	2015	カンダール	37	2019年3月	2019	申請予定
11	スパイドムナック	2016	カンダール	75	2020年3月	2020	申請予定
12	克蘭リブ	2017	カンダール	27	2021年3月	2021	申請予定
13	バンキアン	2017	カンダール	23	2017年10月	2018	申請中
14	プレイタウ	2017	カンダール	25	2017年10月	2018	申請中
15	プレイチュロウ	2017	コンボンチュナン	35	2021年3月	2021	申請予定
16	プレクリアン	2017	コンボンチュナン	36	2021年3月	2021	申請予定
17	プロスネップ	2018	コンボンチュナン	35	2021年3月	2022	
18	チャー	2018	コンボンチュナン	23	2021年3月	2022	

都市スラムの保育所支援事業

ケマラから独立し、自主運営を始めたマタピアップ保育所・コー第1村保育所に給食用の米と豆乳（月2回）を提供した。また、都市スラムに暮らす家庭に布チョッキン活動で、送られた布を使い、人形の縫製を依頼し、現金収入の機会を提供した。



公立地域幼稚園への教材提供と保育者研修（教育省との協働事業）

2016年度開設の公立地域幼稚園 20州 304ヶ所に対して保育教材（絵本7種、パズル2種、布ボール3,040個、布人形1,216体）を提供した。9月と10月に全国6ヶ所の会場で、公立地域幼稚園の保育者を対象に保育教材の目的、使い方などの研修会を実施した。

2. カンボジア研修事業

藍染め技術の復興事業（コンボンチャム州アンコールバーン村）

アンコールバーン村にて藍染めをおこなっている研修参加者7名とその家族、ボランティア2名を対象に藍染め技術の復興・地域での継続収入向上事業を継続して実施した。

① 泥藍研修（7月3日～7日）

日本人専門家・藤格氏を招き、泥藍作り研修を実施した。藍の葉の生育が良く、泥藍づくりの工程もきちんとできており、質の良い泥藍が出来ているとの評価が得られた。

② 藍染め技術研修（9月4日～13日）

日本人専門家・中村佳子氏を招へいし、染めムラ、退色のない精練方法について、研修を行った。専門家がイラストも交えて、酸化・還元作用や藍染めの仕組みを説明した。日頃の藍染めの経験から理解が早かった。



③ 販売促進研修（プノンペン事務所で9月25日～29日）

事業メンバーの家族や親戚の協力を得て、英語で情報発信が可能になった。バナーやポスターを準備し、説明方法、製品の包装や取扱い方法などを研修し、観光客が村を訪れた際に積極的に販売できる環境を整えた。

④ 織物技術研修（8月1日～9月4日と9月14日～17日）

織物研修センター元職員の指導で藍染めスカーフ技術研修を40日間実施した。6名のメンバーが参加し、3種類の模様をそれぞれ10枚製作することができた。昨年の課題であった経糸の準備、整経の計算方法などの技術の定着を図った。2017年度は自分たちで製作した藍染めスカーフ185枚を販売できた。

伝統絹絵絣ピダン研修

伝統文化である括り染めと織りの技術を次世代に伝えるため、ピダン研修を実施した。熟練した織り手であるベック・キム氏が講師となり、4月から6月までの3ヶ月間、4名の織り手を指導した。参加者は、藍染めを取り入れたピダンを括り・染め・織り、絵絣の技術を学んだ。研修終了後も、各自2枚の異なる模様の絵絣を製作することができた。

織物販売事業

- 2017年度は在庫を前年度比65%に削減した。製作する数量と種類を管理し、注文製作を中心に実施した。ショップでのイベントセールは年4回、展示会参加は年7回実施し、また新たな顧客の獲得を目的に、ショップで草木染め体験を2回、13名が参加して行った。
- 芸術文化省の主催で、11月、カンボジアクラフトフェアが開催された。伝統的な花柄模様を織りこむ絹織の競技会では、CYKの織り手が、最優秀賞をとった。
- 売上は\$57,717.02（¥6,264,605）で、支出が約15万円上まったものの、黒字化の目途がたった。
- 2018年度は織物事業全体の評価と織物センターの独立、織物販売事業のCYRからの独立方法の可能性を探る。

▶ II 国内事業

1. 東日本大震災被災地支援

福島県伊達郡「やまゆり保育所」に、給食やミルク等に使用する飲料水（240リットル）を月1回、提供した。2016年12月末までの「震災募金」資金の範囲内で実施し、2017年度で事業を終了した。

2. 資金確保のための活動

寄附・募金のお祝い、補助金・助成金申請の実施

- 「村の幼稚園」の保育者にかかる研修費、給与や運営費を賄う目的で「村の幼稚園募金」をお願いした。
- 「みんなで布チョッキン」活動を促進し、延べ48回実施した。企業・団体延べ1,400名、個人延べ61名に参加頂いた結果、寄付額の合計は約322万円であった。
- 積極的に助成金の申請を行った。過年度に付与された補助金・助成金8件に申請し、採用された7件から568万円を調達し、新規の申請を2件行い、1件で100万円を調達した。



カレンダーの製作と販売

カンボジア在住のフォトジャーナリスト・高橋智史氏と協力し、子どもをテーマとしたカレンダーを1,000部製作し、754冊を販売した。総売上額は約62万円、収益は約34万円であった。



3. 広報事業

インターネットを活用した広報活動

ホームページ月2回、Facebook週1回の更新を目標に行った。ホームページの更新は、情報収集に時間がかかり、目標とした頻度での更新には至らなかった。

支援企業・団体への活動報告

プノンペン事務所長による活動報告会は開催できなかったが、ご支援頂いていただいている企業・団体を個別訪問し、活動報告を行った。

4. 織物販売

国内での担当職員は置かず、企業のクリスマスフェア、教会での販売会などで在庫クリアランスに努めた。

5. ボランティアとの協力促進

- 年間、延べ210名の方々が、総計893時間のボランティア活動にご参加いただいた。
- 第2・第4水曜日のボランティアデーには、「みんなで布チョッキン」のサポート（活動説明や布の検品）、ニュースレターのレイアウト・発送作業、事務所内作業、織物製品の販売等へのご協力をいただいた。

6. その他

- 第16回定時総会終了後、CYRの今後について会員による意見交換会を行った。これを受け、事務局で保育事業、織物事業をいかに地域で継続運営してゆけるかを検討している。
- 2017年度は定例理事会を東京事務所に4回開催し、2018年度～2020年度の中期計画を策定した。
- 過去3年間に会費納入のない会員を「自動退会」とした。

2017年度 数字とグラフで見る 幼い難民を考える会

▶ 活動計算書（要約）

(自2017年4月1日 至2018年3月31日)

(単位：千円)

科目	2016年度決算	2017年度決算	増減	2018年度予算
I 経常収支				
1 会費収入	2,219	2,149	△ 70	1,700
2 寄付収入	20,758	20,505	△ 253	15,700
3 事業収入	10,319	6,906	△ 3,413	6,089
4 補助金収入	11,654	8,337	△ 3,317	7,650
5 その他収入	471	146	△ 325	0
経常収益計	45,420	38,043	△ 7,377	31,139
II 経常費用				
1 事業費				
(1) 人件費	11,095	8,468	△ 2,627	10,267
(2) その他経費	14,392	14,995	603	13,033
事業費計	25,487	23,463	△ 2,024	23,300
2 管理費				
(1) 人件費	11,087	9,193	△ 1,894	3,621
(2) その他経費	6,399	4,849	△ 1,550	3,755
管理費計	17,487	14,042	△ 3,445	7,376
経常費用計	42,974	37,505	△ 5,469	30,676
当期経常増減額	2,446	538	△ 1,908	463
III 経常外収益				
1 その他収益	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0
IV 経常外費用				
1 その他費用	70	70	0	0
経常外費用計	70	70	0	0
当期正味財産増減額	2,377	467	9,675	463

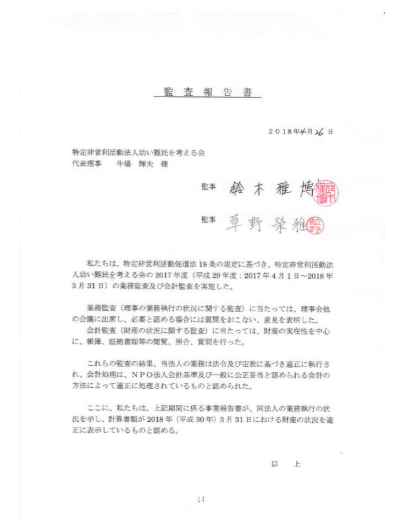
▶ 貸借対照表（要約）

2018年3月31日現在

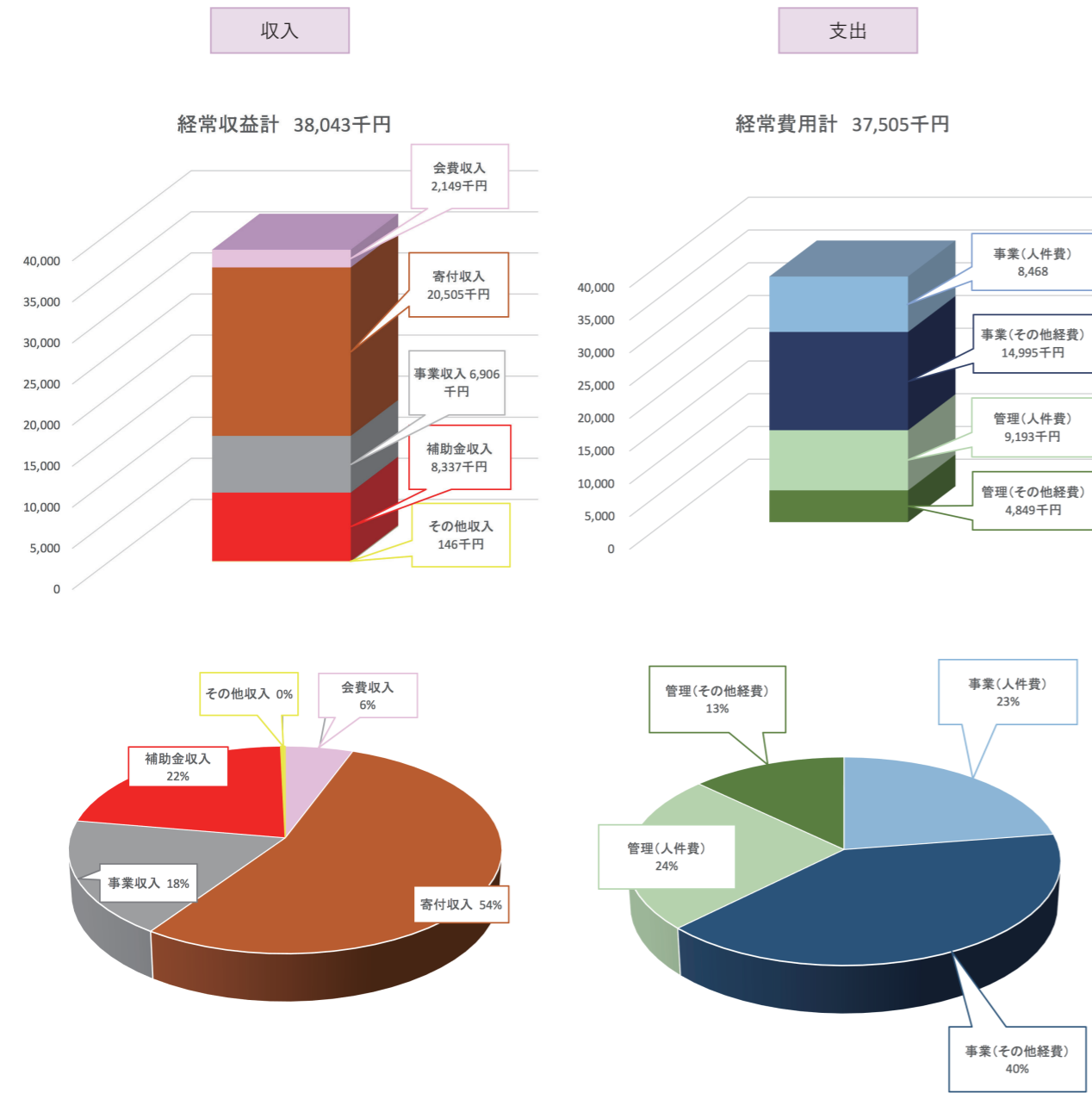
(単位：千円)

科目	金額
I 資産の部	
流動資産	36,269
固定資産	716
資産合計	36,985
II 負債の部	
流動負債	290
固定負債	5,125
負債合計	5,415
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	31,103
当期正味財産増減額	467
正味財産合計	31,570
負債及び正味財産合計	36,985

- 2017年度の会費収入は、前年度比マイナス70千円、予算との比較ではプラス149千円となった。3年間以上の会費未納者を退会処理したため会員数は減少したが、会員に向けて「会費納入のお願い」を郵送した結果、会費納入率が上昇した。
- 2017年度の寄付金収入は、前年度比マイナス253千円であった。予算との対比では2,844千円のプラスとなっている。
- 東京、プノンペンの両事務所での在庫を増やさないよう受注販売をメインにした為、織物販売額は前年比3,291千円減少した。新しい製品の製作を制限したことで、経費も前年比2,221千円のマイナスとなった。
- 2017年度の補助金収入は8,337千円、前年比で総額3,317千円のマイナス、予算との比較では605千円のプラスとなった。既存補助金の継続申請と新規補助金の獲得に力を注いだ結果による。
- 2018年度の会費、寄付金収入は、前年度実績の約80%で計上している。補助金収入については、既に助成が決まっている助成金に加え、今後申請予定の補助金・助成金が取れる可能性を考慮した上で算出している。
- 東京、プノンペンの両事務所スタッフ数を減らしたこと、織物生産量を絞ったことにより経費削減の効果はあったものの、織物事業からの事業収入と補助金収入が前年度より減少したため、収支は前年度比1,909千円のマイナスとなった。



▶ 2017 年度 収入・費用の内訳



▶ 2017 年度事業部門別 活動計算書

(自 2017 年 4 月 1 日 至 2018 年 3 月 31 日) (単位：千円)

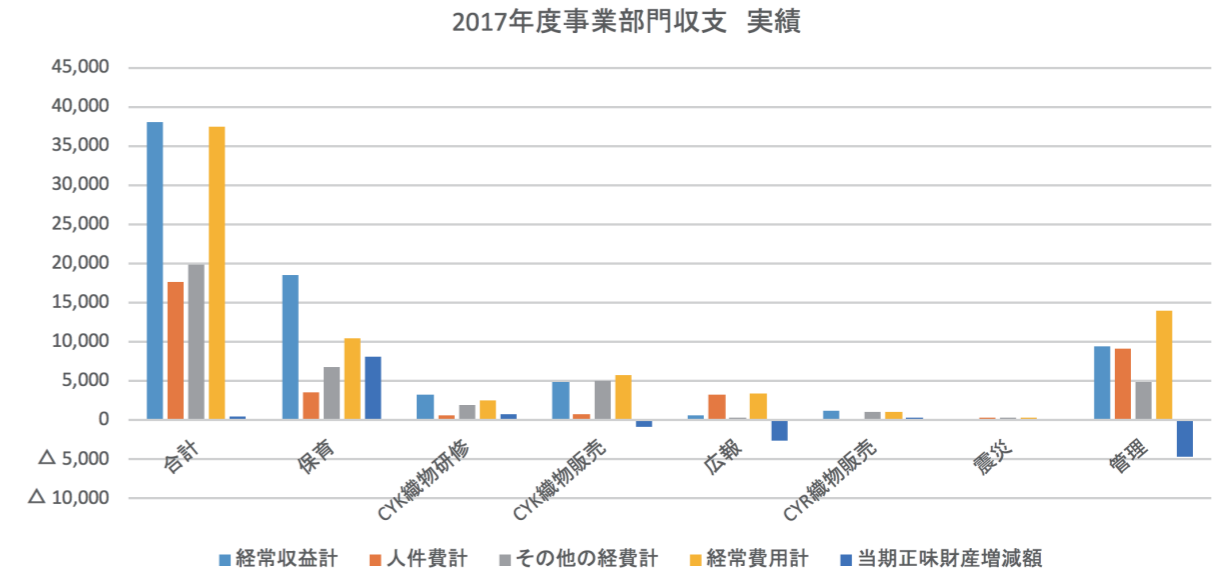
科目	合計	カンボジア事業			国内事業		震災	管理
		保育	織物研修	織物販売	広報	織物販売		
I 經常収益								
会費収入	2,149	0	0	0	0	0	0	2,149
寄付収入	20,505	13,387	0	0	0	0	0	7,118
事業収入	6,906	143	0	4,865	664	1,234	0	0
補助金収入	8,337	5,037	3,300	0	0	0	0	0
その他収入	146	0	0	0	0	0	0	146
經常収益計	38,043	18,567	3,300	4,865	664	1,234	0	9,413
II 經常費用								
人件費計	17,661	3,598	584	812	3,301	0	173	9,193
その他の経費計	19,845	6,846	1,985	4,975	43	1,047	100	4,849
經常費用計	37,505	10,444	2,569	5,786	3,345	1,047	272	14,042
当期正味財産増減額	537	8,123	731	△ 922	△ 2,680	187	272	△ 4,629
前期繰越正味財産額	31,103	0	0	0	0	0	0	31,103
次期繰越正味財産額	31,570	8,123	731	△ 921	△ 2,680	187	△ 272	26,403

▶ 2018 年度事業部門別 活動予算書

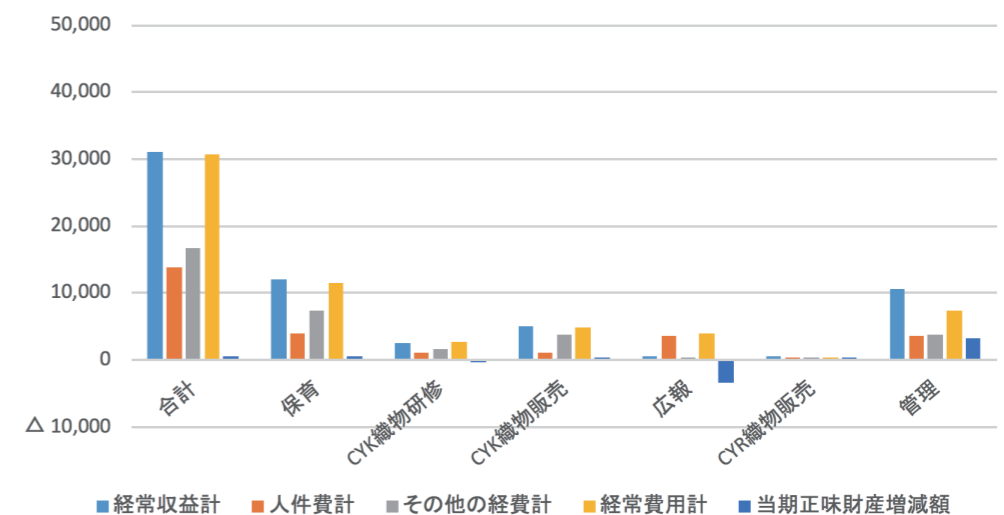
(自 2018 年 4 月 1 日 至 2019 年 3 月 31 日) (単位：千円)

科目	合計	カンボジア事業			国内事業		管理
		保育	織物研修	織物販売	広報	織物販売	
I 經常収益							
会費収入	1,700	0	0	0	0	0	1,700
寄付収入	15,700	6,732	0	0	0	0	8,968
事業収入	6,089	109	0	5,000	480	500	0
補助金収入	7,650	5,150	2,500	0	0	0	0
その他収入	0	0	0	0	0	0	0
經常収益計	31,139	11,991	2,500	5,000	480	500	10,668
II 經常費用							
人件費計	13,888	4,045	1,158	1,133	3,671	260	3,621
その他の経費計	16,788	7,395	1,590	3,744	288	16	3,755
經常費用計	30,676	11,440	2,748	4,877	3,959	276	7,376
当期經常増減額	463	551	△ 248	123	△ 3,479	224	3,292
当期正味財産増減額	463	551	△ 248	123	△ 3,479	224	3,292
前期繰越正味財産額	33,653	0	0	0	0	0	33,653
次期繰越正味財産額	34,116	551	△ 248	123	△ 3,479	224	37,977

▶ 2017 年度事業部門別活動計算書 / 2018 年度事業部門別活動予算書 比較



2018年度事業部門別収支 予算

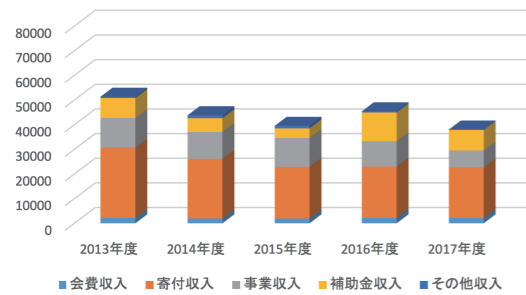


▶ 活動収支年度別推移表

(単位：千円)

科目	2013年度決算	2014年度決算	2015年度決算	2016年度決算	2017年度決算
I 経常収支					
1 会費収入	2,171	1,949	1,906	2,219	2,149
2 寄付収入	28,479	24,180	20,965	20,757	20,505
3 事業収入	12,079	10,919	11,733	10,319	6,906
4 補助金収入	8,103	5,589	3,899	11,654	8,337
5 その他収入	517	1,196	1,025	471	146
経常収益計	51,349	43,833	39,529	45,420	38,043
II 経常費用					
1 事業費					
(1) 人件費	21,452	18,961	18,845	11,095	8,468
(2) その他経費	21,213	20,518	16,361	14,392	14,995
事業費計	42,665	39,479	35,207	25,487	23,463
2 管理費					
(1) 人件費	7,985	6,896	6,988	11,087	9,193
(2) その他経費	6,008	7,401	4,673	6,399	4,849
管理費計	13,993	14,297	11,661	17,487	14,042
経常費用計	56,658	53,776	46,868	42,974	37,505
当期経常増減額	△ 5,309	△ 9,943	△ 7,275	2,446	537
III 経常外収益					
当期正味財産増減額	3,883	1,125	△ 64	△ 70	△ 70
前期繰越正味財産額	△ 1,426	△ 8,819	△ 7,339	2,376	467
前期繰越正味財産額	46,310	44,884	36,065	28,726	31,103
次期繰越正味財産額	44,884	36,065	28,726	31,103	31,570

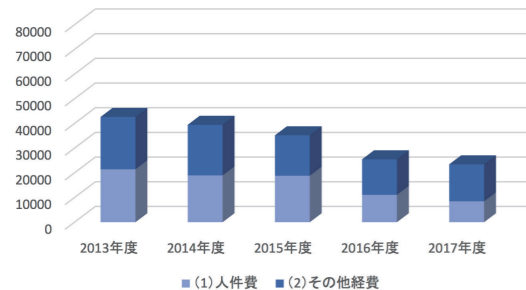
経常収入の内訳推移



経常収入の内訳推移

会費収入が微減し、補助金と事業収入が減少しているため、経常収入は前年から7,378千円のマイナスとなった。寄付金は、大口寄付があったため同水準を保っているが、基調としては減少傾向にある。各種募金のうち、布チョコキンは横ばい、一般寄付と給食募金が減少、一方、村の幼稚園・ゆで卵募金は増加した。

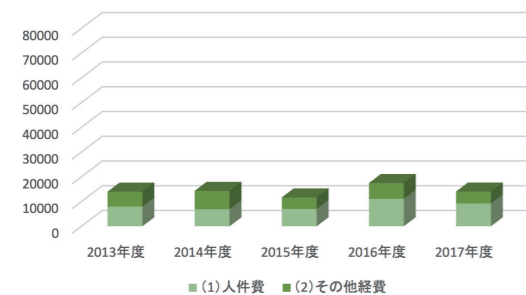
事業費の内訳推移



事業費の内訳推移

2013年度に入ると東日本の被災地支援の需要も落ち着きを見せ始めたため、また支出に見合った収入が確保できなくなったため、活動の主軸を本来のカンボジアでの事業に戻し、それまで年間8,000万円超あった事業費支出を4,267万にまで抑えた。2014年度には3,948万円、2015年度には3,521万円と事業規模を縮小したが、収入も年々減少したため、2013度から2015度の3年間で2,253万円の資産が減少することとなった。そのため、2016年度以降は織物事業の人員削減と事業内容の見直し、保育事業も予算の範囲内で実施することで、収支の改善をはかっている。

管理費の内訳推移



管理費の内訳推移

2013年度は、期中で職員3名が退職したこと及び新規採用者の給与ベースの引下げにより、人件費は前年度比大幅減となった。2016年度にはさらに支出の抑制を狙い人員体制を見直し、事業費と合わせ389万円減少した。なお、2016年度の管理人件費410万円の上昇は、2015年度まで事業に計上していた人件費の一部を実態に合わせて管理費に移したことによる。2017年度も退職職員の補充は行わず、人件費を前年度比452万円削減した。また、2016年度は企業対応や広報活動のために職員の出張が多かったため、その他経費が増加したが、2017年度は出張も最小限に留めた結果、前年度比547万円のマイナスとなった。管理費全体では、前年度比344万円の減少となった。

幼い子どもと女性の自立のために当会を支えている人々と団体

▶ 2017年度 補助金・助成金を通じてご支援いただいている企業・団体

- 公益財団法人日本国際協力財団 -----3,300,000円
- 積水ハウス株式会社、積水ハウスマッチングプログラムの会 -----1,500,000円
- 日本労働組合総連合会 -----1,400,000円
- 株式会社有沢製作所 -----1,400,000円
- 花王ハートポケット倶楽部 -----1,000,000円
- 全日本自治団体労働組合（自治労）福岡県本部 ----- 700,000円
- ILBS国際福祉協会 ----- 436,830円
- Friends of Khmer Culture ----- \$7,413

(2017/4/1～2018/3/31 入金分を記載しています。)

▶ 2017年度 寄付者（寄付金10万円以上の団体）(50音順)

- 三菱商事株式会社
- Global giving Foundation
- 東京海上日動あんしん生命保険株式会社
- 花王ハートポケット倶楽部
- CANTATE DOMINO
- 株式会社一五不動産情報サービス
- 若い難民を考える会チャリティ・パザーグループ
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン厚木
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンさま
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンたま
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン都筑
- 全日本自治団体労働組合（自治労）福岡県本部
- キューピー株式会社
- 枝光学園幼稚園
- 全国友の会

(2017/4/1～2018/3/31 入金分を記載しています。)

▶ 2017年度 「布チョッキン募金」 寄付者（団体のみ）

実施団体名

- アクセンチュア株式会社
- WE21 ジャパンあやせ
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン保土ヶ谷
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンざま
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン都筑
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン大和
- MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ
- 株式会社オリエントコーポレーション
- 教覚寺女性の会
- ゴールドマン・サックス証券株式会社
- サントリービバレッジサービス株式会社
- 株式会社ジェーシービー
- 東京海上日動火災株式会社
- 株式会社東京海上日動キャリアサービス
東北支社・盛岡支社
- 豊田広域ローターアクトクラブ
- 長久手まちセンまつり
- 日本リミニストリート株式会社
- 学校法人原田学園鹿児島情報高等学校
- 特定非営利活動法人 Hands On Tokyo
- へきなん保育園
- 丸紅株式会社・関連会社
- 三菱商事株式会社
- 明治安田生命保険相互会社名古屋本部
- 立正佼成会北九州支教会
- 立正佼成会久留米教会
- レクシスネクシス・ジャパン株式会社
(2017/4/1～2018/3/31 入金分を記載しています。)

実施協力団体名

- ハンモックツリー
- 公益財団法人フィランソロピー協会
(2017/4/1～2018/3/31 入金分を記載しています。)

▶ 2017年度 織物製品主要販売先（団体のみ）

団体名（所在・販売形態）

- クロマニヨン（東京・注文）
- 自治労千葉県本部（東京・買取）
- Sokha Angkor（シムリアップ・委託）
- ゾナゾナクラブ（奈良・委託）
- ISHIKAWA 地域文化企画室 ガレリア表参道
(長野・委託)
- PONNALET（東京・注文）
- 三菱商事株式会社（東京・出張）
- 横浜雙葉高等学校（神奈川・委託）
- siturae llc（東京・注文）
- 昭和女子大学（東京・注文）
- 布楽人（東京・委託）
(2017/4/1～2018/3/31 入金分を記載しています。)

わたしたちの組織

▶ 会員数・寄付者数・役員・職員

会員数

内訳	2012年3月末	2013年3月末	2014年3月末	2015年3月末	2015年3月末	2017年3月末	2018年3月末
個人	339	342	339	340	328	284	241
団体	6	6	9	8	9	9	7
学生	15	10	3	3	3	4	4
計	360	358	351	351	340	297	252
賛助会員	45 (注) 2012年6月より賛助会員の制度は廃止しました。						

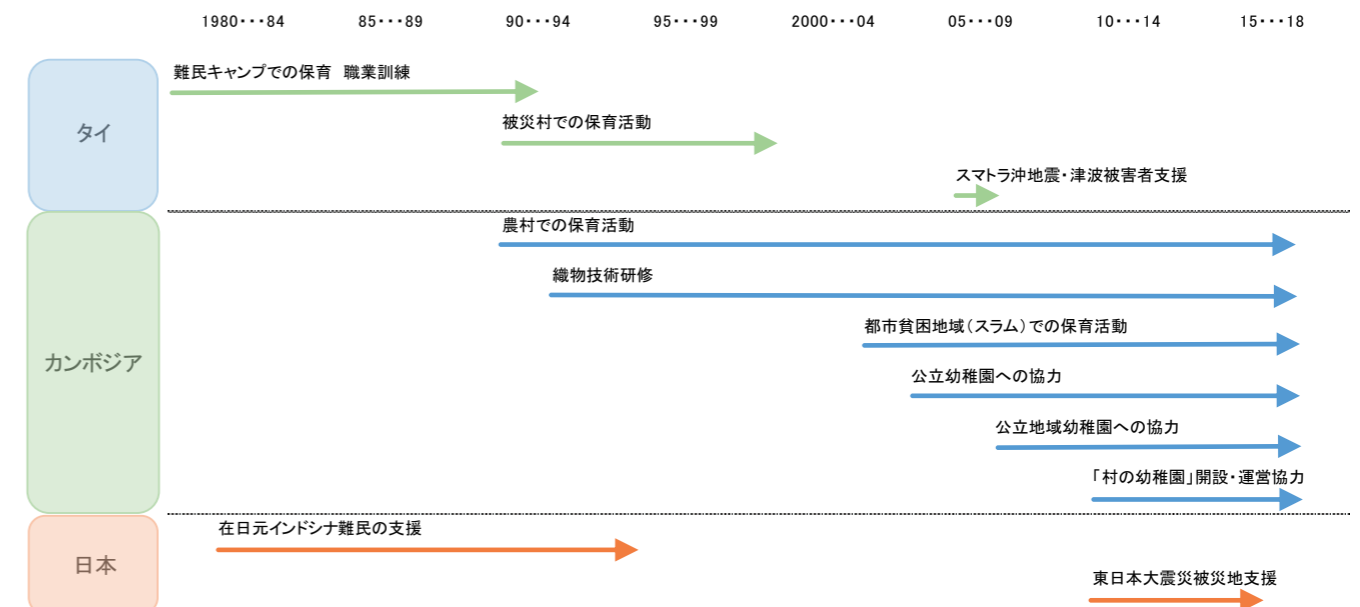
寄付者数

	2012年3月末	2013年3月末	2014年3月末	2015年3月末	2016年3月末	2017年3月末	2018年3月末
計	2,018	1,389	537	479	452	523	438
		個人	428	370	357	445	348
		団体	109	109	95	78	90

役員

役員	職員
2018年3月末現在	2018年3月31日現在
代表理事：牛場 輝夫	東京事務局：3名（事務局長 関口 晴美）
副代表理事：山極 小枝子	プノンベン事務所：7名（所長 チャン・スレイ）
理事：太田 真一	
理事：米倉 雪子	2018年4月1日現在
理事：廣戸 直江	東京事務局：3名（事務局長 関口 晴美）
理事：雨森 政恵	プノンベン事務所：6名（所長 チャン・スレイ）
理事：チャン・スレイ	
理事：関口 晴美	
監事：鈴木 雅博	
監事：草野 榮雅	

▶ 活動履歴



幼い難民を考える会の理念

幼い難民を考える会、その原点「カオイダン難民キャンプ」から38年。
掲げる「理念」は、私達の活動の根幹として変わることなく受け継がれている。

Children, Our Future

今日の子どもの幸せが、明日の平和な世界へつながります。

1980年、内戦により難民となったカンボジアの子どもたちがタイ国境の難民キャンプの恵まれない環境のなかで少しでも人間らしい環境と必要な配慮のもとで暮らせるようにとの願いから、幼い難民を考える会（CYR）の活動は始まりました。

難民キャンプ閉鎖後は、復興をめざすカンボジアの農村で子どもたちが安心して暮らせる環境づくりと女性の自立を支援する活動に取り組んでいます。

会の名前を「難民の子ども」ではなく「幼い難民」としたのは、子どもという独立した人格を尊重する立場から、子どもたちの成長が守られて初めて、祖国を逃れてきた人たちの、あるいは、その国の自立の問題に結びつくと考えたからです。

また、「考える会」としたのは、助けるという意識がしばしば相手の自立を侵したり、相手を管理する体制に陥りがちであることを認識し、難民問題をいろいろな側面から考えていきたいという会の基本姿勢に根ざしています。

私たちはこれからも、さまざまな理由により厳しい境遇に置かれている子どもたちの健全な成長を支援し、その保護者たちが人間らしい生活環境のもと自立できることをめざしてひとつひとつの小さな積み重ねを大切にしていきます。そのことが、難民を生み出さない、明日の大きな平和を創る力となることを、信じています。



■ 東京事務局

〒110-0016
東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 2A
TEL: 03-6803-2015
Email: info@cyr.or.jp
URL: <http://www.cyr.or.jp>

■ プノンペン事務所 -Pidan Khmer 併設 -

#170, St.63 Preah Trasak Paem,
Sangkat Boeung Keng Kang I,
Khan Chamkarmon Phnom Penh, Cambodia
TEL: +855-23-210849
Email: info@cyk.org.kh
URL: www.cyk.org.kh

■ プノンペン事務所地図



会費お振込み、活動へのご支援は、こちらまでお願いいたします。

郵便振替 00110 - 8 - 36227

三菱UFJ銀行 六本木支店（普通）1351747

特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

*CYRは、認定NPO法人です。ご寄附は、寄付金控除の対象となります。

2017年度年次報告書 2018

発行日：2018年8月 発行者：牛場輝夫